



つくる。つつむ。つなく。

東京佼成ウインドオーケストラ

第174回 定期演奏会

2つの大作が描く、 雄大な自然・生命への 讃歌

マスランカ・チクルス Vol.4



〔指揮〕

大井剛史

(常任指揮者)

PROGRAM | プログラム

交響曲第3番／D.マスランカ

Symphony No.3 / David Maslanka [約50分]

第1楽章：適度に I. Moderate ♩ = 84-90

第2楽章：II. ♩ = ca. 72

第3楽章：とても速く III. Very fast ♩ = ca. 160

第4楽章：ラメント IV. Lament ♩ = ca. 86

第5楽章：ラメント(夏の日の歌) V. Lament ♩ = ca. 78 (“Song for a Summer Day”)

休憩 Intermission [20分]

吹奏楽のための風景詩「陽が昇るとき」／高昌帥

Scenery Poetry-Idyll for Wind Orchestra “As the Sun Rises” / Koh Chang-Su [約30分]

第1詩「衝動」 I. Shōdō (Impulse)

第2詩「情緒」 II. Jyōcho (Emotion)

第3詩「祈り」 III. Inori (a Prayer)

第4詩「陽光」 IV. Yōkō (Sunshine)

❶ 注意

- ・本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合があること、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承ください。
- ・ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- ・演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮ください。

本公演に関するアンケートへ
ご協力ください。



PROFILE | 指揮者プロフィール

常任指揮者

大井剛史

Ooi Takeshi

Principal Conductor



©Ayane Shindo

東京佼成ウインドオーケストラ常任指揮者。

17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。東京藝術大学指揮科を卒業後、同大学院指揮専攻修了。若杉弘、岩城宏之の各氏に指導を受ける。1996年安宅賞受賞。スイス、イタリア各地の夏期講習会においてレヴァイン、マズア、ジェルメッティ、カラブチェフスキーの各氏に指導を受ける。

2007～2009年チェコ・フィルハーモニー管弦楽団で研修。2008年アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールで第2位入賞。在学中より東京二期会、新国立劇場などのオペラ公演で副指揮者をつとめ、2002年「ペレアスとメリザンド」(ドビュッシー)を指揮してデビュー。その後はオペラのほかバレエ、ミュージカル、日本舞踊との共演など多くの舞台公演を指揮。

仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者(2000～2001)、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者(2009～2016)、山形交響楽団指揮者(2009～2013)、同正指揮者(2013～2017)、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者(2014～2024)を歴任。このほか全国の主要オーケストラを指揮している。

レパートリーは極めて広く、オーソドックスな管弦楽／吹奏楽の作品を中心として、現代音楽の初演、ゲーム音楽、映画音楽、ポップスなどありとあらゆる音楽を手がける。トーク付きのコンサート、また子供のためのコンサートなどを通じて、より多くの方々に音楽に親しんでいただくことに情熱を注いでいる。

東京藝術大学音楽学部器楽科客員教授(吹奏楽)、尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。

PROGRAM NOTES

曲目解説：中橋愛生 (TKWO楽芸員)

※本文中の「東京佼成ウインドオーケストラ」は「TKWO」と略しました。

デイヴィッド・マスランカ

交響曲第3番

マスランカが遺した吹奏楽のための交響曲の全曲演奏を5年かけて成し遂げる〈マスランカ・チクルス〉。全てお聴き頂いている方には繰り返して恐縮ではあるが、改めてマスランカの紹介をしておこう。

デイヴィッド・マスランカは1943年生まれのアメ리카の作曲家。オパーリン音楽院からザルツブルグのモーツァルテウム大学への短期留学を経て、ミシガン州立大学にて修士号および博士号を取得した。様々な大学で教え、1990年以降はフリーランスの作曲家として活動、2017年に結腸癌のため死去するまでに管弦楽や合唱、そして吹奏楽のためにたくさんの作品を残している。その作曲スタイルは、自らの無意識「真の声」より生まれてくるもので、その衝動に突き動かされ、それに従うことで創られる、というようなもの。時として観念的・抽象的なものとなるが、それだけに高い精神性を持つことになる。代表作『子供の夢の庭』(1981)を聴くと、その独自性は明らかだ。また、マスランカの作品にはバッハの引用や、古い民謡もしばしば登場する。それらは多くの人々に何世代にもわたって歌われ続けた、人間の経験の深みと豊かさを体現したものであるからなのだという。マスランカ自身の作品も、それらと根を同じくする延長線上にあるという考えなのだ。そして、創作のテーマは「喪失」、「悲嘆」、「変容」が主となっている。

マスランカが自身で完成させ番号を与えた交響曲は全部で9曲。このうち『第1番』(1971)と『第6番』(2004)が管弦楽作品で、他は全て吹奏楽のために書かれている。これらを5年かけて演奏するTKWOのチクルスではこれまでに『第2番』、『第9番』そして『第5番』の3曲を取り上げており、今回の『第3番』が4曲目。ちょうどチクルス全体の折り返し点に当たる。そしてこの曲は、マスランカの他の交響曲に比べてやや異質なものである。マスランカ作品に特徴的な前述「引用」が行われておらず、雄大な自然への賛歌となっている。それは、この曲がマスランカが1990年にそれまで大学での教職に就きつつ住んでいたニューヨークからモンタナ州ミズーラに転居したことから関係がある、とされている。都市部から緑あふれる地への転居。それがこの曲の楽想に大きな影響を与えたことは間違いない。それはマスランカ自身が「ミズーラに転居したことで地球の声を感じるようになった」と発言していることから明らかだ。だが、それだけではないことが、ブレントン・アルストン氏が2004年に発表したマイアミ大学の博士論文『デイヴィッド・マスランカの交響曲第3番：委嘱、作曲、演奏に関する関係論的論考』に

よって示されている。その論文を基にしつつ、この交響曲を概観してみよう。

本作はコネチカット大学研究財団および同大の指揮者であるゲイリー・グリーンの委嘱により作曲され1991年5月8日に完成、同年11月21日に同大ウインド・アンサンブル定期演奏会で初演された。指揮者グリーンは、かねてからマスランカ作品に傾倒しており、新作委嘱を望んでいた。余談ながらグリーンは今作のほかに『ミサ曲』(1995/2005)、『トロンボーン協奏曲』(2007)、『交響曲第8番』(2008)の共同委嘱にも加わっており、『ミサ曲』に関しては改訂版の初演も担当している。この『交響曲第3番』の委嘱に際しては、同大の学部長がマスランカと大学同期であったことから、その支援を受けて研究財団の助成を取り付け実現させている。委嘱時の要望は「演奏会のメインとなるような曲」で、グリーンは「演奏時間20分ほどで中程度の演奏難易度」としていたのだが、完成したのは「5つの楽章から成る50分ほどの極めて演奏難度の高い交響曲」であった。

マスランカは創作に際し「瞑想」を行い、その結果浮かんでくる内的必然によって作曲を進めていたことが知られている。特定の個人あるいは団体を想定した作品の場合、委嘱者との深い結びつきを得るために私物を借り、それを触媒として瞑想することもあった。『交響曲第3番』の場合、グリーンがマスランカの『交響曲第2番』を演奏した際に使用した指揮棒を借用している。その結果「ネイティブ・アメリカン」のイメージが浮かんできたという。これはグリーンのお祖母が純血のチェロキー族であったことに由来する。チェロキーとは「山に住む者」という意味であり、結果としてミズーラの風景とネイティブ・アメリカンが住んだ地の像が重なり、さらにチェロキー族とカウボーイに象徴される白人社会との間にある葛藤(グリーンはネイティブ・アメリカ人と白人との混血)から曲想が紡がれることとなった。マスランカは1990年10月8日に行った最初の瞑想の記録を残しており、それはそのままこの交響曲全体の基本的な流れと合致している。

急激に下降すると黄色い草原に出る。

巨大な生き物 ―バッファローが見える。

そして巨大な群れの突進が始まる。

私は群れの一部となる。

私たちはライフルで撃とうとする数人のカウボーイを踏み倒して進む。

無数のインディアンの魂が移動しているのが見える。

さらに、一人のインディアンが馬上で両腕を高く掲げ、勝利の姿勢を取っている。

そして、そのすべての出来事を見下ろすように、巨大なバイソンの頭部が

トーテムとしてそびえている。

その他、戦死したインディアンの亡骸、夕陽を背にした戦士たちと馬の姿、太陽の光から変化した牛の群れ、黄金の光(マスランカの精神世界において神の存在を意味する、自然の癒しの力)、草原に立つ老いたカウボーイ(グリーンのお祖先)など、最初の瞑想から浮かんできた様々なイメージが音楽を導

いている。特にネイティブ・アメリカンの要素とカウボーイ的要素の対立は、伝統的なソナタ形式における第一主題・第二主題のテーゼ・アンチテーゼの関係にもなぞらえることができるし、「黄金の光」による癒しと和解はジンテーゼにも重ねられる。このことは、この曲が「交響曲」たる所以にもなる。マスランカはその後も瞑想を重ね、新たなイメージを投入しつつ各楽章を書き進めた。最終的に完成したのはアルストン氏の言葉を借りると「死と再生、自然との合一、そして受容へ向かう精神の旅」なのである。ここからは各楽章についてマスランカのイメージを交えつつ述べていく。

第1楽章：Moderate ♩ = 84-90

ハ長調の音階をそのまま鳴らす、という大胆な開始。これは「精神世界への降下」なのだという。マスランカは28歳のときに「ハ長調の和音が自分のものである」ことを「発見」したと語っていることも関係あろう。

やがて、インディアンに追われた駅馬車が現れる。ネイティブ・アメリカンとカウボーイの対立。「邪悪な小行進曲」の開始。その後、「黄金の光」による和解へと至る。1991年3月10日完成。

第2楽章：♩ = ca. 72

この楽章の作成に際して行われた瞑想で、マスランカは主に3つのイメージを得たという。1つめが「巨大なサメ」。その口の中には人類全体が詰まっている。マスランカは自分がサメの中に取り込まれた感覚を持つが、その後に自身がサメとなった感覚ともなっており、「変容」のイメージ。2つめが「雪に覆われた熊(グリズリー)」の夢。マスランカにとって熊は精神世界の強力な守護者だが、その熊が襲いかかってくる。その攻撃を受け入れ、通り抜け、その力がもたらそうとしているものへの到達のイメージ。3つめが「カメレオン」。ゴミ箱の後ろにいるそれは、触れようとすると素早く逃げていく。地球の果てに広がる空間のような美しい目を持つカメレオンは変化の象徴であり、精神的な美への通路のイメージ。

総じて言えるのは「死と変容」。死のイメージに続きマスランカが「天使的主題」とする繊細な旋律が現れ、変容のイメージへと導かれる。なお、楽章名は既存のCDクレジットなどに「Moderate」や「Slow」などと表記されることがあるが、スコアにそのような表記は無い。

第3楽章：Very fast ♩ = ca. 160

瞑想で得られた「バッファロー狩り」のイメージと、マスランカが夢の中で案内人に告げられたという「フーガの山」のイメージによる。狩りの描写に始まり、途中で山を登り、再び狩りの描写に戻る、という珍しいまでに簡素な三部形式となっている。マスランカにとってバッファローは「地球そのものの生命力」の象徴であり、それを狩るという行為は生命を奪い受け継ぐという自然の循環である。「フーガ」は、マスランカにとって険しい岩山を登る試練のようなものであるという。その山の頂点では、低音は動かず、高音が吹き荒ぶ風のように激しくなる。地上と天空、生と死、という2つの世界の境界をめぐる楽章。1991年4月6日完成。

第4楽章：Lament ♩ = ca. 86

マスランカによると「雌の熊が黄金の光について歌う」イメージによる楽章。それは「自然界の絶対的な美しさへの気づき」、「生きることの喜びと苦しみへの気づき」、「生命力の中心に立っているという感覚」だという。「孤独な語り」、「不安の高まり」、「山の草原」、「影の再来」、「黄金の光の歌」、「生命の源流」、「遠ざかる風景」という7つの部分に分かれ、それぞれの部分で旋律が独自に歌われていく様は、まさに「ひとつの風景の旅」。楽章のおおよそ2/3(黄金分割点)に登場する「黄金の光の歌」は、第1楽章終結部に登場した「神のエネルギー」を示す黄金の光の主題の発展形。「生命への賛歌」というべき楽章だ。1991年4月23日完成。

第5楽章：Lament ♩ = ca. 78 (“Song for a Summer Day”)

「美しい夏の日、自然の中でインディアンたちと出会い、熊に導かれて山を登ると、山の上で陽光を浴びる。また、ダイヤモンドがキリストの聖心に変わり、その中心から炎が現れるのを見る。」というような瞑想で得たイメージによる。様々な感情が入り混じるゆったりとした部分を過ぎて5分ほどしたところで、4分音符の刻みの上で朗々と歌われるのが「熊の歌」。これは様々な楽器に姿を変えつつ歌い継がれていき、やがて天上の響きへと至り、静かに消えてゆく。精神の旅の帰着点でもある、受容の楽章。1991年5月8日完成。

Picc 1,2 / Fl 1,2 / Ob 1,2 / Eng-Hrn / Bsn 1,2 / C-Bsn / Es-Cl / Cl 1,2,3 / Bas-Cl /
Cb-Cl / Alt-Sax 1(Sop-Sax),2 / Ten-Sax / Bar-Sax / Trp 1,2,3 / Hrn 1,2,3,4 / Trb 1,2,3 /
Bas-Trb / Euph / Tuba / Cb / Timp / Perc / Pf

高 昌帥

吹奏楽のための風景詩「陽が昇るとき」

高昌帥は1970年に大阪で生まれた。大阪音楽大学作曲科を卒業後、スイス・バーゼル音楽アカデミーへ留学。作曲を田中邦彦、ルドルフ・ケルターボーンに師事している。吹田音楽コンクール作曲部門で一位無し二位、コダーイ記念国際作曲コンクール佳作など、国内外の作曲コンクールに入賞し、早くから着実に実績を重ねてきた。その創作の最初期である1992年より吹奏楽に積極的に作品を提供しているが、一挙に注目を集めたのは『吹奏楽のためのラメント』が第12回朝日作曲賞受賞し2002年度の全日本吹奏楽コンクールの課題曲となったことだろう。以降、『ソロ・パーカッションと吹奏楽のための協奏曲《雷神》』（2003）、『ウインドオーケストラのためのマインドスケープ』（2005）、『吹奏楽のための協奏曲』（2016）など数々の優れた吹奏楽作品を発表しており、これまでに日本吹奏楽指導者協会「下谷奨励賞」を二回受賞、日本管打・吹奏楽アカデミー賞（作・編曲部門）を受賞している。2018年度の全日本吹奏楽コンクール課題曲として『吹奏楽のための《ワルツ》』を委嘱により書き下ろしたことを記憶している人も多いだろう。なお、高は主に吹奏楽や管楽アンサンブルのための作品がよく知られているが、コンスタントに管弦楽のためにも作曲しており、自身の吹奏楽曲を管弦楽に編曲したものも少なくない。また、指揮者としても活動、さらには教育者としても優れており、母校である大阪音楽大学の教授および副学長も務めている。

高の作品からは強靱な生命力の躍動が感じられる。持ち前の筆致の強さは幅広い音楽知識に支えられ、特にドイツ・ロマン派を思わせる堅牢かつ壮大な音楽に結実している。そこに自らのルーツである朝鮮半島の音楽素材を加えることで、唯一無二の世界を創り出している。『サムルノリと吹奏楽ための《ピナリ》』（1995）、『コリアン・ダンス』（2002）といった楽曲に見られる旋律素材や長短（チャンダン／朝鮮半島にある西洋的三拍子に近い不等分割のリズム）の使用は特徴的だ。そして、この『陽が昇るとき』にもそういった高の美質がよく現れている。

本作は全部で4つの楽章（詩、と表記される）から成るが、最初からそのような全体構想だった訳ではない。それぞれの詩は個別の機会に作曲されており、委嘱元も異なっている。まず吹奏楽指導者・渡辺秀之の指揮する団体のために第3詩が作られ、同じく渡辺が指揮する別の団体のために第4詩が作られた。この時点でさらに数曲を追加して交響組曲のような形にすることを漠然と考えていたところに2団体から新作委嘱を受けたことで、全4曲から成る「風景詩」とすることが決定された。作曲順は3、4、2、1の順。全曲の初演は、最後の第1詩の初演の際に、全曲演奏という形で行われている。なお、最終的に一つの風景詩としてまとめるに際し、第2詩と第3詩には改訂がなされ、タイトルも変更されている。楽章によって一部の楽器が使われないことがあるのは、別々の機会に作られた名残だろう。

第1詩「衝動」

2004年に創価学会関西吹奏楽団の委嘱で作曲、2005年3月13日に伊勢敏之の指揮で初演された。ハ長調の和音（に、それと対極にある嬰ヘ音を付加）で高らかに開始される。最後に作られたこともあり、以降の楽章の要素が周到に組み込まれていて、全曲としての完成度を高めている。この楽章ではハーブは使われない。

第2詩「情緒」

2004年にウインドアンサンブル「一期一会」（富山）の委嘱で作曲、高の指揮で初演された。初演時のタイトルは「諧謔のとき」で、後に編成も変更されている。第1詩の第一主題を断片的に用いた、複雑な拍子の錯綜が印象的なスケルツォ楽章。ソプラノ・サクソフォーンとピアノはこの楽章のみで使われる。また、この楽章では2番アルト・サクソフォーンとハーブは使われない。

第3詩「祈り」

2003年に関西大学応援団吹奏楽部の委嘱で作曲、翌年に渡辺秀之の指揮で初演された。初演時のタイトルは「祈りのとき」で、後に結尾部が改訂されている。最後まで速くならない緩徐楽章。これが最初に作られた楽章なわけだが、もしこれがテンポ的な転換を含む曲として構想されていたならば、この全曲は生まれなかっただろう。この楽章ではE♭クラリネットは使われない。

第4詩「陽光」

2003年に宝塚市吹奏楽団の委嘱で作曲、翌年に渡辺秀之の指揮で初演された。初演時のときのタイトルは「陽が昇るとき」で、最終的な全曲の題となったもの。これまでの各詩の要素が統合され、壮麗な響きで全曲を閉じる。この楽章ではE♭クラリネットは使われない。

さて、『陽が昇るとき』という題からは、当然、太陽が昇ってきて夜から朝になる、という自然の情景が浮かんでこよう。高自身が記した解説でも、第4詩についての末尾で「最後はタイトルが示すように輝かしく曲を閉じます」としている。だが、各詩のタイトルを見て分かるように、単に自然界の「太陽の光」を描写したものではなく、人の精神世界になぞらえてあることは明らかだ。ハ長調の扱い、「光」が示すもの、など、マスランカ『交響曲第3番』との共通点も、また興味深い。

Picc(Fl) / Fl 1,2 / Ob / Bsn / Es-Cl / Cl 1(div),2,3(div) / Alt-Cl / Bas-Cl / Cb-Cl /
Alt-Sax 1(Sop-Sax),2 / Ten-Sax / Bar-Sax / Trp 1,2,3 / Hrn 1,2,3,4 / Trb 1,2,3 / Euph /
Tuba(div) / Cb / Timp / Perc / Hrp / Pf

賛助会員

今後も音楽文化の発展に貢献する活動を行い豊かな社会を実現するため、趣旨にご賛同いただける多くの皆様からの継続的なご支援が必要です。賛助会へのご入会をぜひご検討ください。

年会費	賛助会員	維持会員	特別会員
個人	3,000円/1口	10,000円/1口	100,000円/1口
法人	100,000円/1口	300,000円/1口	1,000,000円/1口



詳細はこちら

※会員期間：会費納入翌月より1年間

お問い合わせ：東京佼成ウインドオーケストラ事務局 賛助会担当 FAX: 03-5341-1255 MAIL: patronage@tkwo.jp

賛助会員の皆さま

五十音順、敬称略で掲載させていただいております。(2026年6月1日現在)

法人会員

特別会員 (株)佼成出版社

維持会員 エーユーツーリスト((株)アコード) 名古屋 宗次ホール

賛助会員	株式会社アシストジャパン 遠藤製作所 遠藤悦治 管楽器専門店ダク 鈴木住地(有) 立花産業(株) 中央鉄鋼 有限会社 株式会社 Fumon IT Systems みずほ証券株式会社	アトリエ・エム株式会社 株式会社CAFUAレコード 建友商工(株) 株式会社全音楽譜出版社 株式会社辰美製作所 フォスターミュージック株式会社 株式会社プリマ楽器 柳澤管楽器株式会社
------	---	--

個人会員

特別会員	天野 正道	加賀美 猛	佐々木 潤	田中 淳子
	野田 武彦	林 正作	林 總太郎	久末とまこ
	古沢 秀明	ミーゴ	山内 幸人	

匿名3名

維持会員：144名 / 賛助会員：78名



SUPPORTERS CLUB

東京佼成ウインドオーケストラ サポートーズクラブ

会員
募集中

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)を応援したい仲間が集まるファンクラブです。

TKWOをもっと身近で特別な存在に♪

サポートーズクラブへ入会して、一緒にTKWOを盛り上げていきましょう!



詳細はこちら

PR Supporters

PRサポーターの皆さま

敬称略で掲載させていただいております。(2026年6月1日現在)

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

▼店舗等一覧

アルル音楽教室
(株)コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター
ブレン株式会社 広島本社
ブレン株式会社 東京支社
(株)管楽器専門店ダク
ミュージックスクール「タ・カーゴ」
(株)セントラル楽器
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎
管楽器雑貨専門店pitch
ザ クラリネット ショップ
(株)ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京
(株)永江楽器水戸
野中貿易(株)
ヤマハミュージック 横浜みなとみらい
株式会社 池袋音楽学院
株式会社CAFUAレコード
大江戸シンフォニックウインドオーケストラ
ドレミファクトリー
フルート専門店 テオバルト
アトリエ・エム株式会社
インパシ楽器 横浜店

フォルテ・オクターヴハウス
管楽器専門店ウィングスタイル
フォスターミュージック株式会社
金管楽器修理調整 浅香工房
葡萄房 by THE CAMEL
吹奏楽酒場「宝島。」
金寿司
フローリスト花六
中華 大枈
おぐセンター
ワイン酒場トンマーズ
小林メディカルファミリー薬局
天ふじ
立花産業株式会社
方南町 共立薬局
御菓子司 大和や

▼個人のお客さま

渡邊 直子
樫野 哲也

東京佼成ウインドオーケストラでは
PRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけますか？
ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。(個人も含む)ご協力いただける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・オフィシャルサイトに掲載させていただきます。



第175回 定期演奏会

2026年 9月21日[月・祝]
開演14:00(開場13:00)
東京芸術劇場 コンサートホール



指揮 下野竜也

- 呪文と踊り/J.B.チャンス
- 交響曲第2番/J.B.チャンス
- 巫女の舞/保科洋 ユーフォニウム独奏 岩黒綾乃
- 交響曲第2番/保科洋



第176回 定期演奏会

2026年 11月8日[日]
開演14:00(開場13:00)
東京芸術劇場 コンサートホール



指揮 大井剛史(常任指揮者)

マスランカ・チクルス Vol.5

- クワイエット・コール[1991年委嘱作品]
／真島俊夫 トロンボーン独奏 今村岳志
- ティンパニ協奏曲/酒井格
ティンパニ独奏 坂本雄希
- 交響曲第8番/D.マスランカ



第177回 定期演奏会

2027年 1月24日[日]
開演14:00(開場13:00)
東京芸術劇場 コンサートホール



指揮 飯森範親(首席客演指揮者)

- 波の見える風景(改訂新版)/真島俊夫
- 脆性ノスタルジア 吹奏楽のための/冷水乃栄流
- 秘儀VI<ヘキサグラム>全曲(吹奏楽版世界初演)/西村朗/中橋愛生 編
- バリのアメリカ人/G.ガーシュウィン/保科洋 編
- 交響曲第2番(日本初演)/K.デイ

第178回 定期演奏会

2027年 2月28日[日]
開演14:00(開場13:00)
東京芸術劇場 コンサートホール



指揮 大井剛史(常任指揮者)

- 行進曲「希望に燃えて」/水島数雄
- 日本民謡組曲「わらべ唄」/兼田敏
- 冬山に逝ける若者への祈り/岩河三郎
- TKWO委嘱作品[世界初演]/波立裕矢
- サンシャイン序曲/E.E.バークレイ
- サンタフェ・サガ/M.グールド
- ディシジュアス/V.クオン
- 委嘱作品[世界初演]/D.ピーデンベンダー*

*2025年度バーウ賞受賞者による新作。委嘱コンソーシアムに参加する各団体が、それぞれ世界初演を行います。

料金(一回券)/ 第175回~178回 S席 ¥6,500 A席 ¥5,000 B席 ¥4,000 C席 ¥3,000 U25 ¥2,500

※全席指定、税込 ※当日券は500円増しとなります。(U25を除く)

北関東『吹奏楽のまち・小山』共創プロジェクト第1弾!

ウインド・クリスマス ~小さな吹奏楽が奏でる冬の名曲~

2026年 12月19日[土] 開演14:00(開場13:30)

小山市立文化センター大ホール

演奏 東京佼成ウインドオーケストラ15名によるアンサンブル

曲目 (調整中)

ファンタスティック☆クリスマス2026

2026年 12月22日[火] 開演19:00(開場18:00)

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮 大井剛史(常任指揮者)

ソプラノ 宮地江奈 メゾソプラノ 谷口睦美 テノール 山本耕平

バス 大西宇宙 合唱 東京混声合唱団

曲目 ● クリスマス序曲/N.ヘス/P.リトルモア

● 交響曲第9番ニ短調作品125「合唱つき」/L.v.ベートーヴェン/保科洋 編

課題曲コンサート2027

2027年 3月27日[土] 開演14:00(開場13:00)

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮 大井剛史(常任指揮者)

曲目 ● 2027年度全日本吹奏楽コンクール課題曲全曲 ほか

好評発売中

Original goods

TKWO オリジナルグッズ

東京佼成ウインドオーケストラでは、
オリジナルグッズを販売しています。
自主演奏会の会場や
TKWO オンラインショップにて
ご購入いただけます。
演奏会の思い出に、普段使いに、
さまざまなアイテムをご用意しています。

New! 新色で再登場!



楽器クロス



ネイビー

Tシャツ

ホワイト

ブラック



トートバッグ



リングノート



クリアファイル

ほかにもCDなど
多くの商品をご用意しております。



ご購入・詳細はこちら

TKWO 吹奏楽カフェ



定期演奏会に先立ち、大井剛史（常任指揮者）&中橋愛生（楽芸員）が、公演の演奏曲や
作曲者にまつわるエピソードなど、通常の楽曲解説とはひと味違う視点から語ります。

ここでしか聞くことのできない会場限定の裏話などもございます。

今回は、9月21日開催の第175回定期演奏会についてご紹介します。



第12回

2026年 8月21日[金] 19:15開店(18:45受付)

管楽器専門店ダク「スペースDo」 JR新大久保駅徒歩約5分

料金 2,500円(税込)

定員 30名

■ 共催：管楽器専門店ダク

詳細は、公式サイトをご確認ください▶



楽譜だけじゃない！
映像収録も CAFUA レコード

CAFUA
映像事業部

全国どこでも

定期演奏会 撮影 DVD制作 承ります

新規のご依頼 急増中！

お気軽にお問い合わせください

info@cafua.com 03-6261-4564

CAFUA RECORDS

CAFUA オンラインショップにて
好評発売中

吹奏楽のための風景詩

『陽が昇るとき』

高昌帥

新装版スタディスコア



CD『酒井格 作品集』

大井剛史 指揮
東京佼成ウインドオーケストラ

- ① The Seventh Night of July (『たなばた』初期編)
- ②④ いちご協奏曲
- ⑤ 148 の瞳
- ⑥ 森の贈り物
- ⑦ さよなら、カッシーニ
- ⑧ たなばた【ボーナスストラック】

オンラインショップ 限定特典

『大井剛史のTalk Live!』
特別版 DVD-R 付き

株式会社 CAFUAレコード

〒102-0075 東京都千代田区三番町24 林三番町ビル4F
TEL 03-6261-4564 / FAX 03-6261-4565 https://cafua.com info@cafua.com

Vincent Bach — The Art of Sound



奥山 泰三



TOKYO KOSEI WIND ORCHESTRA

東京佼成ウインドオーケストラ

ガルシア 安藤 真美子

河原 史弥

PHOTO by Masanori DOI

Bach サイト www.nonaka.com/bach/

NONAKA いい楽器をあなたのもとへ

総輸入元 野中貿易株式会社 | 総発売元 株式会社ノナカ | 231-0011 横浜市中区太田町4-46



www.nonaka.com



YAMAHA
Make Waves

Casual Wind Instrument

TROVA™

トロヴァ™

音が出るって、**ワクワク**するね♪



NEW YTL-110

オープン価格

～子供のための、プレトランペット～

誰でも手軽に安心して金管楽器の演奏を体験できるように開発されたシンプルな管楽器です。バルブシステムを持たないため運指を覚える必要がなく、唇を振動させて発音するリップリードで自然倍音を鳴らすだけで初心者でもすぐに音を楽しめます。

お問い合わせ

お客様コミュニケーションセンター 管弦打楽器 相談窓口

フリーダイヤル TEL.0120-132-808

携帯電話、IP電話からは 050-3852-4087へおかけください。

受付時間：月曜日～金曜日 10:00～12:00/13:00～17:00(祝日、センター指定休日を除く)

製品情報
はこちら▶



株式会社ヤマハミュージックジャパン

2026年7月5日(日) 開演 : 14:00 (開場 : 13:00)

東京芸術劇場コンサートホール

主催：一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ

助成： 文化庁

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

独立行政法人日本芸術文化振興会



<https://www.tkwo.jp/>